

科目名	生活経済学	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Economic Theory on Consumption and Investment	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済水準での消費および投資についての分析です。		
授業概要	本授業では、マクロ経済学で学習した消費および投資について、相互に独立した様々な理論を学習します。具体的には、家計の消費行動および企業の投資行動を説明する諸理論を学習します。		
到達目標	学生は、消費および投資の諸理論の重要概念および分析手法を習得できる。		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください。		
履修条件	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱおよびミクロ経済学Ⅰ・Ⅱの知識を前提とします。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	マクロ経済学からの準備1（ケインズ経済モデルにおける消費）		
第3回	マクロ経済学からの準備2（ケインズの消費関数）		
第4回	消費関数論争1（クズネッツによる問題提起）		
第5回	消費関数論争2（相対所得仮説）		
第6回	消費関数論争3（恒常所得仮説）		
第7回	消費関数論争4（ライフサイクル仮説）		
第8回	前半のまとめ		
第9回	投資理論1（現在価値）		
第10回	投資理論2（投資の限界効率）		
第11回	投資理論3（ケインズの投資関数）		
第12回	投資理論4（加速度原理）		
第13回	投資理論5（新古典派の投資理論）		
第14回	投資理論6（トービンのq理論）		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学（第4版）」 岩波書店（2017） ブランチャール 「マクロ経済学（上）（下）」 東洋経済新報社（1999、2000）など		
成績評価	<p>【成績評価の方法】小テスト（20%）、定期試験（80%） 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。 <p>【成績評価の基準】</p>		

	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
オフィスアワー	① 毎週月曜 3時限目 ②毎週木曜 2時限目
学生への メッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。